2021 年 9 月 15 日発行

日野稲門会

かわら版

第 3 号

日野稲門会事務局
日野本町 5-13-2
宮本方☎042-585-5737
編集責任者 五十嵐耕一
https://www.hinotomonkai.org

あなたはどちら？　　両方とも・・・

芸術の秋 or 食欲の秋

第 2 回　美術作品展

一昨年の夏に当会創立 40 周年記念事業として開催した美術作品展の第 2 回目を今秋開催します。
今回は、会員の奥様からも出展していただき、作品も絵画、写真、陶芸、彫刻に加え、パッチワーク、和紙等の工芸品の出展もあり、バラエティーに富んだ楽しい美術展になっています。深まった静かな秋のひと時を会場で過ごしてみませんか。
会場では万全の感染対策を実施しております。

★日時 2021 年 **10 月 27 日(水)～30 日(土)**
10:00～17:00
（初日 13:00 開始、最終日 16:00 終了）
★場所　ひの煉瓦ホール（日野市民会館）
2 階　展示室

今からでも是非出展してみたいという方、9 月末まで受け付けておりますのでご連絡ください。

（問合せ先）　宮本　誠二　080-3205-0583
E メール：seiji-74.511@ivory.plala.or.jp

第 23 回 秋の収穫祭（芋掘り）

毎年恒例の「秋の収穫祭」を今年も開催の予定です。
今年は**さつま芋、里芋**に加えて、美味しい**八ツ頭**を 10 株用意しました。
コロナ禍収束の気配は未だありませんが、昨年同様に感染予防対策を徹底して何とか開催出来ればと思います。収穫祭が開催される頃にはコロナも落ち着いて楽しい日々が来ますように、それまでお元気にお過ごしください。
ちびっ子も楽しめますので、ご家族連れで、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

日時　10 月 9 日（土）（予備日　10 日）

場所　実践女子短大グランド横の農地
（ファミマ近く）

参加費　300 円（1 家族）

（問合せ先）　杉本　武彦　042-583-6101
詳細は、別添のチラシをご覧ください。

日野稲門会総会

今回は、コロナウィルス感染拡大防止対策のため、議案審議のみで懇親会などは無し。
〈日時〉令和 3 年 10 月 17 日(日)午前 11 時より　（場所・開催方法などは別途連絡します）

contents

・イベント案内 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
・同好会だより ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
・会員からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・ 2～4
・編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

同好会だより

ハイキング同好会

松島　正明　（昭 43 産専・建築）

ハイキング同好会は平成 6 年 5 月に発足して 27 年となります。会員数は最大時には 20 数名であったが、時の流れと共にメンバーも入れ替わり減少傾向で、現在は 15 名であるが、最近では参加者 7-10 名程度と寂しくなっております。

活動内容は年間 4 回で 5・9・11・3 月に標高差 500m程度の山登りと丘陵地を 4 時間程度歩くハイキングを実施しています。

平成 23 年に実施した第 56 回は 16 名の参加で日野から西武観光バスで畳平まで行き、乗鞍岳剣ヶ峰（3026m）に登頂しました。乗鞍高原日野山荘に宿泊し、夜には食堂で大いに盛り上がり会員相互の親睦の時を過ごすことが出来ました。また、帰りのバスではお酒を飲みながらカラオケで盛り上がり、八王子インターを出てから校歌を合唱して、1 泊 2 日ハイキングでの全員無事を締めくくりました。

今までのハイキング実施後の活動レポートは、日野稲門会ホームページに記載していますので、一読願えれば幸いです。日野は近くに高尾山や奥多摩・中央線沿線の山々に近接した場所にあり、山歩きを楽しむ者にとってはより取り見取りの宝庫です。コロナ禍のこの機会にハイキングを楽しんでみませんか。

令和 2 年度はコロナの影響で、1 年間活動を自粛してきましたが、令和 3 年 9 月 11 日（土）に南リーダーのもとに再開することが決定しました。当同好会は高齢者でも気軽に参加できます、皆さん一緒に山歩きを楽しみませんか。

秋川丘陵ハイキング：広徳寺山門前

会員から

玉南電気鉄道記念の碑

石川　宏（昭 42 工研修・通信）

高幡不動の山門をくぐると左手に土方歳三の銅像があります。その左に大きいがあまり目立たない石碑があります。これは「玉南電気鉄道記念の碑」で、当時府中が終点だった京王線を、八王子まで延長したいきさつが記されています。

京王線は大正 5 年、新宿～府中間で電車が運転されるようになりました。さらに府中～八王子間の建設をという地元の強い要望がありましたが、折しも京王電気鉄道は揺籃期の苦闘時代にあったため、頓挫していました。そのため浅川の南の篤志家が金を出し合い、さらには鉄道省の補助金を申請し建設することとしました。しかしこの補助金の条件はレール幅（軌間）が 1067mm で、京王線はもともと路面電車規格の 1372 ミリの変則軌でした。そのため別会社（玉南電気鉄道）を設立し、1067mm で府中八王子間を建設することとし、大正 14 年に府中～八王子間を開通させました。（府中で乗り換えが必要）

しかし補助金は国有鉄道の路線と競合するという理由で却下され、結局、京王電気鉄道が玉南電鉄を吸収合併することとなりました。そして軌間を 1372mm に改軌工事をおこない、昭和 2 年 6 月 1 日に新宿（新宿追分）～八王子（東八王子）間の直通運転を開始しました。

この碑にはこの苦労話が記されているほか玉南鉄道の技術的な記載も多く、「軌間は３フィート６インチ（1067mm）、電気方式は直流６００V、架線はシンプルカテナリー式」など鉄道マニアにとって興味深い内容です。このような碑がお不動さんの中にあるのはなぜかと考えるに、それまで徒歩と渡し舟で来

会員からのメッセージ

ていた高幡不動の参拝客数が、鉄道のおかげで百倍以上になったといいますから、高幡不動尊の感謝も込められているのでしょう。

日野稲門会　ご縁とご恩

生川 博（昭 41・ 政経）

私が日野稲門会の扉を叩いたワケは、年１度の総会・懇親会にのみ参加して、ちょっぴりワセダの雰囲気に浸りたかったからです。ところが入会後暫くして、同好会の幹事や校友会のお役目をお受けしたことを皮切りに、役員 14 年間、うち事務局長を 8 年間務め、今年 3 月に退任するまで、稲門会にどっぷりと浸ることになりました。

お世話になった大学や稲門会に細やかな恩返しが出来ればと努めてきましたが、何 と又もや私が恩恵を享受する場面が多くなってしまいました。

一例を挙げれば、日課のウオーキングですが、ややもすれば怠り勝ちになります。そこに訪れたのが、事務局の裏方の用務でした。まず事務用品などの調達は、意図して徒歩で片道 1 時間ほど離れた店舗に、小まめに出向くこととしました。また、会議の会場まで 1 時間ほど担当地区のポスティングもあります。正に、私の健康増進のために力強く後押ししていただく恰好となり、喜びも一入でした。このように享受した恩恵は、枚挙に暇がなく、退職後の生活に潤いを覚えました。

稲門会用務のチャンスを与えていただいたことと、時に温かいお言葉や厳しい激励など色々な形で支えてくださったことに心からお礼を申し上げます。有難うございました。

海外での生活を通じて

相馬　安行　（昭 59　文学）

前回は 1998 年から 2015 年まで仕事の都合で外地（オーストリア、ルーマニア、ケニア、スロバキア、ドイツ）におりました。自分の専門外国語（入省時に外国語を一つ選択します）はドイツ語で、学部時代は第一外国語として、また追加的に語研で集中的に学ばせてもらいました。こうした機会を与えてくれた母校に感謝しております。

前任地はドイツのデュッセルドルフで、日本人の駐在員やその家族も多く、稲門会もありました。来るものは拒まず、去る者は追わずの母校のモットーが活きており、新年会やバーベキューなど懐かしく思い出されます。

さてケニア勤務時代に自分達が住んでいた集合住宅の敷地内にもよく探すとカメレオンがいたことからこの動物に興味を持ち始め、ドイツ滞在中は、ドイツ爬虫類協会・カメレオン部会に入会し、フィールドワークや研究・情報交換会・講演会などに日本人は私だけでしたが参加し、大変興味深い経験を得ました。ドイツ語で書かれているカメレオンの専門書を目下通勤時電車に座れた時に少しづつ訳していて、定年前に日本語の翻訳版出版することを目標としています。

カメレオンと

私の仕事について（自己紹介を兼ねて）

内山　研一（昭 51　理工・工経）

２０２０年の３月に大東文化大学を７０才で退職し、研究室の本や資料を日野の神明のアパートに大移動しました。最初は書斎代わりに自宅の国分寺から通うつもりでしたが、コロナ禍でいろいろ面倒になって、いまは月２～３回ぐらいしか使っていません。

そうした中、今年の３月頃 JR 日野駅前の「フレッシュネス・バーガー」でコーヒーを飲んでいたところ、隣の席に初老の紳士が何か一生懸命に原稿をものしているのに出くわしました。「やっぱりこの人もワープロでなく手書きなんだな」と共感を覚えたので話しかけてみました。席のいすの上に早稲田のマーク入ったトートバックがあったので「早大出身の方ですか」と聞いてみたら、こ

の方が前の会長の小笠原豊さんでした。そのとき稲門会のお話をうかがって皆様の同好会の活動にも興味を持ち入会させていただきました。私は TBS-TV でやっている俳句の番組「プレバト」に大変興味を持っていて、この俳句の場における参加者の対話や本音の議論の仕方は、いま日本から失われてしまっている「思いの共有」の場を提供しているものと考えているのです。ある意味で常識（コモンセンス）の再構築を促す議論の仕方であるとも言えます。
われわれの世代は、社会人になると職場の上司や同僚とアフターファイブは居酒屋などでその日の昼間にあった問題について「あれってどうゆうコトだったろうね」と本音の議論を戦わしたものでした。この本音の思いをぶっつけて、時間をかけて議論をすると、ある時間が過ぎると誰かのひと言がきっかけで、「それってこうゆうコトだったんだ」と不思議に全員が納得できる思いの共有ができたものでした。今の人々は論理で議論するモノの議論は得意ですが、本音をぶつけ合って「どうゆうコト」かを皆んなで常識として見出す議論の仕方が不得意ではないでしょうか。だから同じ日本人同士でも世代やジェンダー、貧富の違いで考えが分断して決して共通の思いのペースを見出すことが行われないのではないでしょうか。
私の研究は「モノの学からコトの学へ」ということで、とかく一義的な結論を求めるモノの議論をする前に、参加者が当事者として感じるコト、経験からいえるコトをベースに議論をしてアコモデーション（思いの共有を基礎とした異なった世界観の同居）に導く「ソフトシステム方法論」というイギリスのピーター・チェックランド（ランカスター大学教授）が開発したメソドロジーを日本的に再構築しています。アコモデーションとは通常のモノ的合意の意味のコンセンサスとは明らかに違った合意の仕方で、むしろ日本的あいまい性を許した合意といえるかも知れません。例えば俳句の評定のような場での議論では、季語のコモンセンスの上にたった美的アコモデーションの議論が必要なのです。

さて今年はコロナ禍も少しずつ先が見えてきている雰囲気もあるこの頃ですが、日野で若い人たちとこの方法論を使った「プレゼン塾」などをやってみたいと思っています。若い人との世代間のアコモデーション、つまりいっしょにコモンセンスを再構築するワークショップです。稲門会の皆さまには、いろいろなテーマについて是非若者との本音の話し合いを通じて経験を語っていただければ面白いと思います。この方法論を使えば、決して説教にならずに若者と共感できる思いの共有が見出せると思われます。案内できるようになりましたら、会を通じてお知らせしたいと思います。
（大東文化大学名誉教授、青山学院大学客員教授）

花のまちづくり（日野市主催）

『コスモスアベニュー事業』に参加

浅川スポーツ公園外周（万願寺５丁目３番地）のコスモス通りにコスモスの種をまき、種まき後も間引き・草取り作業等を行い、花が咲くまで大切に育てていくものです。
６月２０日(日)に会員１２名が参加し、W マークになるように種まきしました。秋には赤・ピンク・白の花が咲きます。日野稲門会のプレートがありますので皆さんもちょっと覗いてみてください。

編集後記

コロナ禍で人との交流が少なくなっています。かわら版はコミュニケーションの場です。皆様の投稿を常時募集しています。気軽に投稿お願いします。

かわら版編集長：五十嵐 耕一（広報担当）
編集委員：京極 英二、宮本 誠二、上田 實
広報担当メール：hinotomonkai.kouhou@gmail.com